

令和6年度入学生用カリキュラムマップ

【応用音楽学科】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 知識・理解				2. 技能・表現				3. 思考・判断				4. 態度・志向性			
1-1	1-2	1-3	1-4	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	3-4	4-1	4-2	4-3	4-4					
24UMUA1100	初期演習 I	1	本学で修得すべきことは何かを理解し、自主的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。このため、本学の「立学の精神」「教育目標」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。さらに、主体性・論理性・実行力を培い、女性として有為な社会人となるために、それぞれの学部学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力の修得の必要性を理解し、各自のキャリアデザインを自ら構築する。	大学の修学の基礎となる単位制を理解し、適切な履修計画に沿って修学する主体性、考える力を身につけ、所属学科の3つのポリシーに基づく専門教育の概要を把握し、自らのキャリアデザインを組み立てる力を身につける。また、良識ある社会人となるための社会人基礎力の必要性を理解し、その基盤となる十分なコミュニケーション能力を培い、基本的な社会ルールを理解し、本学学生としての誇りと自覚を身につける。さらに、学習・研究を進める上での倫理の基礎となる情報の取り扱いに関する知識を身につける。												◎	◎	○		
24UMUA1101	初期演習II (音楽探求への誘い)	1	前期の「初期演習I」での学習を踏まえ、4年間の本学科における教育の体系、一貫性を理解し、より多角的な音楽の研究とおして全人的発展を遂げ、将来のキャリアパス形成に繋がるよう、今後の本学科における専門教育の目標を達成するよう導く。	①専門領域のより多角的な研究を遂げるためにカリキュラムツリーに基づくカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの理解を深める。 ②専門領域における研究倫理を培うとともに、卒業後の進路も見据えたキャリアパス形成に向けた知識、手段を考える力を身につける。 ③上記の事項を実践し、総合的に成熟した音楽人として成長していく。	○											◎	◎	○		
24UMUA2102	2年次演習	2	音楽人として確実に身につけておくべき事項を中心に課題を与え、「情報収集、思考、討議、分析、プレゼンテーション」という主体的・能動的学習を経験し、グループワークによる協働力を養う。	上級学年において、より専門的な研究を深め音楽芸術を表現・活用していくため、また将来のさまざまな進路に向けて、論理的思考力、コミュニケーション能力の向上を目指す。	◎												○	○	◎	○
24UMUA1103	英語 A	1	これまでに修得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要なとされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。	異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。												◎			○	
24UMUA1104	英語 B	1	これまでに修得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要なとされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。	異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。												◎			○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																		
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																		
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性															
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4										
24UMUA4221	作・編曲法 A	4	童謡や歌曲を主な題材に、その時代背景も視野に入れながら作品分析を行い、創作を通して作曲や編曲の技法を習得するとともに、作曲家の意図を読み取り、歌唱の団体指導や演奏に反映する能力を養う。また西洋および日本の音楽・文化に関する知識の理解や、問題に取り組む方法、表現力の向上に役立つ能力を身につける。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	「和声法」や「旋律と和声」で学んだ知識を活用して、声楽作品の分析や作曲、編曲をすることができる。またその過程で学んだことを指導や演奏に活用することができる。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○								◎										
24UMUA4222	作・編曲法 B	4	器楽作品を主な題材に、その時代背景も視野に入れながら作品分析を行い、創作を通して作曲や編曲の技法を習得するとともに、作曲家の意図を読み取り、歌唱の団体指導や演奏に反映することのできる能力を養う。また西洋および日本の音楽・文化に関する知識の理解や、問題に取り組む方法、表現力の向上に役立つ能力を身につける。	前期で学んだ基礎的な作曲技法を生かして、器楽作品の分析や作曲、編曲をすることができる。またその過程で学んだことを指導や演奏に活用することができる。	○									◎									
24UMUA2223	旋律と和声 A	2	「和声法B」で習得した技能に加え、さらに高度な和声を用いて、旋律との関係を考慮しながら実施する能力を身につける。さらにそれらの多様な和音、およびそれが作品の中で使われる際の多様な意味を、歴史的背景もふまえながら探求し、作品を深く理解する能力を養う。	属七などのドミナント諸和音を含む和声課題の実践能力を習得し、楽曲における和声の仕組みを読み取り考察することができるようになる。	○									◎									
24UMUA2224	旋律と和声 B	2	「旋律と和声A」で習得した技能に加え、さらに高度な和声を用いて、旋律との関係を考慮しながら実施する能力を身につける。さらにそれらの多様な和音、およびそれが作品の中で使われる際の多様な意味を、歴史的背景もふまえながら探求し、作品を深く理解する能力を養う。	サブドミナント諸和音や借用和音を含む和声課題の実践能力を習得し、楽曲における和声の仕組みを読み取り考察することができるようになる。	○									◎									
24UMUA2225	教育伴奏法	2	中学、高等学校の授業および音楽療法の現場で取り上げられるよう教材を用い、各曲の指導のねらいとポイントにそった音楽づくりができるような伴奏および弾き語りをする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	伴奏を通して音楽全体を把握し、より良い音楽表現を目指して弾き語りができるようにすることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。										○	○	◎							

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1.知識・理解	2.技能・表現	3.思考・判断	4.態度・志向性	1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2
24UMUA3234	学内演奏Ⅲ	3	「演奏者」と「鑑賞者」の両方の視点を養わなければ、音楽を真に理解し、探求することは不可能である。この科目は「演奏」と、その「鑑賞」を通して、音楽とは何か、演奏とはどういうことなのかを体感することを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 多様な演奏を聞き、講義を受講することにより、音楽に対する感性を養い、知識の幅を広げる。 演奏者および鑑賞者としてのマナーを習得する。 	◎															
24UMUA1235	イタリア語表現演習	1	音楽に携わる者に必修のイタリア語の初級文法と発音を徹底する。	<ol style="list-style-type: none"> 同じ5つの発音をもつ日本語とイタリア語の音の違いを理解し、発音練習を繰り返すことにより、歌唱に役立てる。 イタリア語の初歩文法を理解する。 簡単な会話を習得する。 				◎												
24UMUA4236	楽器・合奏指導法	4	音楽療法を実践する上で大切なのは、クライアントの多様なニーズや状況に応じた音楽を用いることにより、コミュニケーションできる能力である。クライアントとラポールを形成するための選曲や効果的なアレンジやアンサンブルなど、音楽療法に役立つ技術を習得する。	臨床の場を想定したアンサンブルを通して、クライアントの多様なニーズや状況に応じて音楽を効果的にアレンジし、コミュニケーションできる能力を習得する。									○	◎	○					
24UMUA3237	歌唱・合唱指導法	3	歌唱・合唱を通じて社会に貢献できる実践力を備えた教員や、音楽療法士などを育成する。	様々な対象者（幼児から高齢者、障がいのある人など）に対して力を発揮できる指導者を目指す。											○	◎				
24UMUA3238	器楽合奏	3	実際の教育現場における多様性に学生が自ら考え、創意工夫をし、対応できる力を身につけることを目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	アルトリコーダーの基本的な奏法を習得し、合奏を通して、アンサンブルの中における個の表現力とアンサンブル全体の表現力にイメージを及ぼすことにより、協調性を育み、自らの演奏の問題を発見し、それを克服する術を自ら考える。 教育現場における邦楽への関心の高まりを受けて、篠笛の奏法も学習する。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。									○	◎	◎					
24UMUA4239	邦楽	4	学校教育において「和楽器の履修」が義務となっている現状では、その指導者の育成は急務である。その必要性は学校だけに与まらず、一般社会においても望まれている。本講座では、邦楽を邦楽器（箏）の演奏と歌唱の両面から学び、基礎知識および演奏法の習得を目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	箏の基礎知識を理解できるようになることはもちろんであるが、箏の奏法を習得し、演奏できるようになることを最も重要と考え、到達目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。									○	◎	◎					
24UMUA3240	演習	3	音楽療法専修：音楽療法の中でも、特に自分の興味・関心のある領域の研究を行う。4年次の卒業論文に向けて研究テーマを見い出し、各自の問題意識を深め、必要な知識や研究方法を修得する。授業はゼミ形式で行う。 音楽活用専修：音楽活用に関わる基礎的な知識を身につける。	<p>音楽療法専修：</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業論文のテーマを設定する。 文献検索の方法を知る。 授業内においてパワーポイント資料やレジュメを作成して発表する。 ディスカッションの方法を学ぶ。 <p>音楽活用専修：</p> <ul style="list-style-type: none"> アートマネジメントを中心とする音楽文化事業の企画・運営について理解し議論できるようにする。 音楽教育、音楽の心理学・科学的研究について理解し議論できるようにする。 												○	○	◎	◎	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																		
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																		
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性	1-1:	1-2:	1-3:	2-1:	2-2:	2-3:	2-4:	3-1:	3-2:	3-3:	4-1:	4-2:	4-3:	4-4:	
24UMUA3251	レポーターラーニング	3	障害者児や高齢者を対象にした音楽療法を実践する上で大切なのは、これまでに歩んできた個々の歴史や背景を知ることである。そのためには、世代に共通した文化を個々の人生の背景として理解することが必要となる。このことを通じて、音楽療法の実践に役立つ技術を学ぶ。	・障害者児から高齢者に至るまで、各世代に共通した文化的背景について理解する。 ・上記を踏まえた音楽療法の実践技術を習得する。															◎	○	◎		
24UMUA2252	ダンスと動き	2	本講義では、音楽療法の周辺領域であるダンス・ムーブメントセラピーおよび表現アートセラピーを学ぶと同時に、ダンス・ムーブメントと音楽、あるいはその他の表現形式を組み合わせたワークの学習によって、より幅広い技法を習得する。	1. 安心して学習できる「パーソンセンタード」の環境づくりを学ぶ。 2. からだを通じた自己探求を試みる。 3. ダンス・ムーブメントが持つヒーリングの側面を体験する。 4. グループワークの方法を学ぶ。															◎			◎	
24UMUA3253	医学概論	3	人体の構造と機能を関連づけて正しく理解し、正常な状態が病気によって障害された際に起こる変化について学習する。また先端医療の抱える諸問題についても考察する。	人体を構成する臓器系とその生理的働きを理解し、それらの病態（生活習慣病、感染症、難病、精神疾患、先天性疾患、知的障害など）について学習し、さらに人口静・動態や疾病の現状など公衆衛生に関する状況、また保健福祉対策の概要についても理解を深める。															◎				
24UMUA3254	音楽療法各論Ⅰ	3	音楽療法の対象分野の中での幼児・児童に関する問題点を学ぶ。 特に幼児期の発達と障害について、音楽と言語の関係とこれまでの研究の紹介などから、臨床面との関連を学ぶ。	・幼児期よりの機能的発達の特徴や障害について理解する。 ・自閉症、AD/HDなどの理解と音楽療法との関連について理解する。 ・発達障害に対する臨床的アプローチを習得する。																◎	◎		○
24UMUA4255	音楽療法各論Ⅱ	4	幅広い臨床領域の中から、特に精神上（心理面や行動面など）生活を送るうえで影響を受けている状況にあるクライアントを対象とした音楽療法の学習を進める。クライアントを包括的に理解しながら、それに対する音楽療法のアプローチを紹介するなかで実践的知識と技術を主体的に学ぶ。	科目履修後は、授業内容に記載の項目について一定の知識を持ち、理解ができていることを目標とする。																◎	◎		○
24UMUA4256	音楽療法各論Ⅲ	4	高齢社会を迎えたわが国において、高齢者の心身における様々な症状を理解し、生活や生き方を支えていく援助のあり方とは何かについて考えることは重要である。また、介護が必要な高齢者への援助や、介護予防につながるアプローチのひとつとして適用されている音楽療法について理解する。	・高齢者における音楽療法のニーズや状況について理解する。 ・高齢者への音楽療法によるアプローチを習得する。																◎	◎		◎
24UMUA3257	臨床医学各論Ⅰ	3	うつ病を15人に一人が経験するとされるなど、精神障害が身近で頻度の高い疾患であること、そして決して特別な病気でないことが最近では広く知られるようになってきている。正しい精神障害に対する知識を深めることを授業目的とする。	音楽療法士資格試験を合格できるだけの精神医学の一般的な知識を得る。																◎			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																			
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																			
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性										
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4						
24UMUA3258	臨床医学各論Ⅱ	3	日本音楽療法学会が出題している音楽療法士(補)認定試験問題を解くために必要な知識のうち、“臨床医学各論Ⅱ”の関連分野である“小児の身体的および認知面の発達と疾患”について、音楽療法士として理解しておくべき内容について講義を行う。	ヒトの身体の解剖生理、小児の身体的、認知的発達の基本的仕組みを理解する。さらに発達からの逸脱、疾病、特に後に障害の原因となる病態について理解できるようにすることを目標とする。	◎																			
24UMUA3259	音楽療法演習	3	音楽療法の知識や技法を習得し、実践への応用力を養う。	・高齢者への音楽療法の技法を習得する。 ・子どもへの音楽療法の技法を習得する。 ・音楽の諸要素を療法的に活用する方法を知る。 ・多様な症例を想定した素材・教材について研究する。 ・音楽療法実践場面に必要な観察・評価法を学ぶ。						○		◎◎		○		○		○						
24UMUA1260	音楽療法実習Ⅰ	1	様々な音楽療法の対象者や方法、および臨床の実践について、体験学習を通して基礎的理解をする。	・高齢者の音楽療法の実際について知る。 ・子どもの音楽療法の実際について知る。 ・病院における音楽療法の実際について知る。						◎		◎	○	○	◎	○	○	○						
24UMUA2261	音楽療法実習Ⅱ	2	社会的体験を通して、対象者および対人援助についての理解を促進する。	・子どもの音楽療法について知る。 ・高齢者への音楽療法について知る。 ・対人援助に必要なマナーや態度を習得する。 ・音楽療法における観察と記録の方法を習得する。						◎		◎	○	○	○	◎	◎	○						
24UMUA3262	音楽療法実習Ⅲ	3	社会的体験を通して、対象者および対人援助についての理解を促進する。 主に高齢者に対する音楽療法実践に必要なとされる基本的な技能、態度を習得する。	・認知症高齢者への音楽療法の実践方法を学ぶ。 ・アセスメントと目標の設定について学ぶ。 ・音楽療法における適切な音楽の選曲や演奏方法について学ぶ。						◎		◎◎	○	○	◎	◎	○							
24UMUA4263	音楽療法実習Ⅳ	4	専門的な観点から対象者を理解し、自立的に音楽療法の臨床、実践を行う力を養成する。	・対象者へのアセスメントを行う。 ・対象者に合わせた音楽療法の目標を設定し、計画、実施する。 ・適切な音楽を選択し、療法的な効果をもたらせるように活用する。 ・対象者が演奏しやすいように伴奏する。 ・音楽療法の評価を行い、事例レポートを作成する。						◎		◎◎	○	○	◎	◎	○							
24UMUA3264	音楽療法研究法	3	この授業において、前期は文献調査の方法や音楽療法研究の主な手法について理解を深め、自らの研究テーマを探る第一歩とする。またExcelを用いて統計解析とグラフの作成を行い、データ解析の基礎を身につける。 後期は、音楽療法士として自己形成する目標と方法を確立し、音楽療法の実践を事例研究レポートとしてまとめあげる力を養う。	通年の授業を通して以下の到達目標を設定する。 ①文献や資料をもとに音楽療法の研究方法、研究内容を理解し、自らの関心領域を見つける。 ②量的研究について認識を深め、データの集計や基本的な統計解析から音楽療法の効果を客観的に考察する力を身につける。 ③質的研究について、個々の多様な事例の理解を深め、療法的視点で考察できる力を身につける。 ④音楽療法関連分野の質的・量的研究、新しい研究事例の学習を通じて、対象者のニーズに応じた臨床・研究法を提案できるようになる。 ⑤授業全体を通して自ら設定した研究課題について、研究計画が立案できるようになる。																		◎		◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																			
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																			
					1. 知識・理解				2. 技能・表現				3. 思考・判断				4. 態度・志向性							
					1-1	1-2	1-3	1-4	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	3-4	4-1	4-2	4-3	4-4				
24UMUA4265	音楽療法総論	4	音楽療法と関連分野の総合的な知識の修得、および理解の深化を目的とする。	以下の領域における知識を修得する。 ・音楽療法 ・音楽 ・音楽心理学 ・統計 ・研究方法 ・臨床心理学 ・発達心理学 ・基礎医学 ・小論文の書き方					○				○				◎	○	◎	○			○	
24UMUA1266	音楽社会学概論	1	「音楽」を通じて社会を見るための広範な知見を得られるようにする。テキストの購読を中心とし、そこから音楽および音楽社会学を取り巻く状況や、関連する学問分野について学ぶ。	身近な音楽と社会の関係を自ら発見できるようにする。					◎												◎			
24UMUA4267	音楽教育学研究	4	本科目では、近年の音楽教育研究において、どのようなアプローチで課題解決を図っているのかを学び取り、学生自らの問題意識と結びつけながら思考する力を養う。	音楽教育学の理論的な思考法を理解し、自らの考えを述べることができる。					○						◎									
24UMUA1268	環境と音楽	1	音楽と、音楽がおかれる環境に関して多角的に学ぶ。	音楽活動が行われる環境について広い視野をもてるようにする。					◎												◎			
24UMUA3269	生涯学習関係論Ⅰ	3	本授業では、生涯学習に関する基礎知識を学び、生涯学習関連施設で展開されるさまざまな取り組みを知ることで、生涯学習の役割を検証するとともに、生涯にわたって学習することの意義を理解するための基礎を養うことを主な目的としている。	・家庭教育、学校教育、社会教育の役割を知るとともに、それらを幅広く包括する生涯学習の基礎知識を得る。 ・生涯学習関連施設の役割や取り組みから、市民参加者との関係性や連携について学ぶ。 ・生涯学習とボランティア活動、市民活動、NPO活動の関連について学び、生涯学習での学びを主体的に社会に生かすことの重要性について考察する力を身につける。											◎	○								
24UMUA3270	生涯学習関係論Ⅱ	3	音楽を中心とする芸術環境と生涯学習・社会教育環境について学び、両分野をコーディネートできる知識・実践を身につける。	生涯学習領域における音楽の役割を理解する。											◎	○								
24UMUA2271	音楽とマルチメディア	2	本授業では、音楽を鑑賞するという行為に注目し、過去からの変遷を学ぶことで、マルチメディアが音楽の聴取スタイルや音楽内容に変化をもたらしたことを知るとともに、マルチメディアを音楽活動の実践に活用するための視点を養うことを主な目的としている。	・マルチメディアの出現によって、音楽の聴取スタイルや音楽内容自体に変化をもたらしたことを理解する。 ・現在身近なものとして使用する音楽再生機器がどのように発展してきたのか、過去からの変遷について知識を得る。 ・マルチメディアを音楽活動に活用するための方法を提案できる力を養う。					◎						◎									
24UMUA4272	表現技術演習	4	コミュニケーション能力と言語能力を高めるための演習である。音楽を媒体として相互理解をするにしろ、それを取り巻く言語による表現力が長けている方がスムーズに本質に近づく。寡黙なミュージシャンではなく、言語表現力の豊かな魅力的な人間になるための実践演習をする。	適切な言語を使って、心のふれあいができるようにコミュニケーション能力を高める。																○	○	◎	◎	

